

講義名	商業簿記			
担当教員	島田 奈美			
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 5時限 / 後期 木曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	4	備考

主題と概要

本講義は、商業簿記 を履修したまたは、日商簿記検定3級の内容を学習済みの学生を対象に、日商簿記検定試験2級（商業簿記）の範囲のうち主要なテーマを学習します。株式会社を前提とした一般的な取引（商品売買など）から決算の手続き、財務諸表の作成までの主要な範囲を学習します。本講義では株式会社における取引や関連する制度についても説明し、それを簿記上でどのように処理していくのかを問題演習を通じて学習します。

本講義の学習を通して経営学科DP（1）・、会計コースDP（5）・、（5）・、マーケティング学科DP（1）・、ブランド戦略コースDP（2）・、流通ビジネスコースDP（3）・、（3）・）の達成に貢献します。

到達目標

- (1)簿記一連の手続きについて理解するとともに、会計帳簿と財務諸表を作成できるようになる。
- (2)会計帳簿や財務諸表の作成を通じて、ビジネスの諸活動を計量的に把握する能力を身につけることができるようになる。
- (3)日商簿記検定2級を合格することができる能力を身につけることができるようになる。
- (4)会計の専門科目や隣接分野（経営・ファイナンス等）の科目の学習に際して役立つであろう基礎的な知識を身につけることができるようになる。

提出課題

現時点では課す予定はありませんが、講義の進捗度や学生の理解度に応じて課す可能性があります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストを実施後の講義内で、解答を示したうえで丁寧に解説をします。また、小テストの都度、点数の開示をします。

評価の基準

以下の点を総合して評価します。出席回数を平常点に付加することはありません。

- ・中間テスト（講義時間中2回程度実施）60%
- ・期末テスト 40%

履修にあたっての注意・助言他

- ・第1回目は成績評価の方法や講義の進め方についての説明をするので必ず出席してください。
- ・第1回目から講義を開始するので必ず出席してください。
- ・積み上げ型の講義なので、欠席が続いたり、復習をおろそかにした場合、突然講義内容が理解できなくなる可能性があります。
- ・簿記は、教員の説明をただ聴き、模倣するだけでは理解できません。講義時間中に与える演習問題を積極的に解くことで知識を定着させ、その過程で理解が難しいものについては教員に質問し、テストに向けて講義時間外でも自らできる学生以外は単位取得は困難です。
- ・本講義は商業簿記 を履修した学生及びそれに相当する学生を対象としています。本講義にて簿記を一から学びたいという要望にはお応えできません。基礎簿記または商業簿記 を履修してください。

教科書	.合格トレーニング 日商簿記2級 商業簿記 Ver.14.0 (よくわかる簿記シリーズ) .	TAC簿記検定講座	TAC出版	1,980	4813285651

プリント資料及び参考文献

毎回資料を配布しそれに基づいて講義を実施します。
資料は、講義内容を聴きながら必要事項を記入して初めてテキスト代わりになるものです。
よって、欠席した回の資料は配布しません。

教科書にしている問題集は、講義の復習に使用してください。この問題集にて自習を行った前提でテスト問題を出題します。

授業計画

1. 講義全体の説明と3級の復習
2. 簿記一連の手続き
3. 損益計算書と貸借対照表
4. 商品売買（商品売買取引）
5. 商品売渡（返品・割引・割引き）
6. 商品売買（商品の期末評価）
7. 現金および預金（現金・当座預金の調整）
8. 現金および預金（銀行勘定調整表・定期預金）
9. 債権・債務（クレジット売掛金・手形取引）
10. 債権・債務（電子記録債権・債務、債務の保証）
11. 復習・まとめ
12. 中間テスト（第1回）
13. 有価証券（有価証券の範囲・分類、株式の処理）
14. 有価証券（公社債の処理、有価証券の期末評価）
15. 有形固定資産（有形固定資産の購入・減価償却・固定資産の売却）
16. 有形固定資産（有形固定資産の勘繰購入など）
17. 有形固定資産（有形固定資産の除却と廃棄など）
18. リース取引（リース取引の分類・処理）
19. リース取引（ファイナンス・リースとオペレーション・リース）
20. 無形固定資産等と研究開発費
21. 復習・まとめ
22. 中間テスト（第2回）
23. 引当金
24. 外債預解会計
25. 税金
26. 株式の発行
27. 剰余金の配当と処分
28. 決算手続き
29. 収益・費用の認識基準
30. 復習・まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・各回に事前配布する講義資料の範囲を熟読し、資料内でわからないところを確認しておくこと（1時間程度）
- ・配布資料を講義に熟読し、例題を再度解きなおすこと（15分程度）
- ・指定問題集の中から教員が指定した個所の問題を解き、間違いや苦手な部分は解説や配布資料を熟読して理解に努めること。（2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標（1）から（4）を達成することにより、経営学科DP（1）・、会計コースDP（5）・、（5）・、マーケティング学科DP（1）・、ブランド戦略コースDP（2）・、流通ビジネスコースDP（3）・、（3）・）の達成に貢献します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

- ・学習の進捗具合により、授業計画が変更になることがあります。
- ・中間テストの日程及び内容については授業時間およびポータルで告知します。確認してください。
- ・本講義は対面授業ですが、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラパスの修正をすることがあります。